

第5次山元町国土利用計画（案）に対するパブリックコメントによる意見と町の考え方

NO	意見	町の考え方
1	<p>1. 防風林について 全編にわたって自然環境が作文のお題目に終わっています。1960年代以降、山元町の自然環境は損なわれ続けています。東日本大震災の津波によって平野部の自然環境は大きな打撃を受け、残っていた屋敷林、境界林の木立も復興事業によってすべて失われました。屋敷林、境界林は防風林および景観として平野部の自然環境に大きく寄与していました。農地の大規模化の中で新たな防風林の植林が必要とされています。</p>	<p>(5)利用区分別の町土利用の基本方向②森林に記載のとおりです。 沿岸部においては、防災林となる防災緑地の再生を推進することとしており、また、農地整備事業で整備している防風林帯は、復旧した農地(畑)において春先の強風により飛砂が発生し、復旧した水路の埋没や作物への影響が見受けられたことから、畑の利用に合わせた配置計画で実施しております。</p>
2	<p>2. 海岸、沼沢地について 自然環境における海岸および沼沢地の重要性が認識されていません。住民および外来者の海岸利用、沼沢地利用について全く考慮されていません。交流人口拡大の面からも海岸および沼沢地は大切な自然環境です。このような認識不足のために貴重な砂浜への山元沿岸風力発電導入を町が容認するような事態になっています。</p>	<p>(5)利用区分別の町土利用の基本方向②水面・河川・水路に記載のとおり、水辺空間の有効利用及び親水機能の向上を図ることとしております。 海岸・沼沢地の自然環境の重要性に対するご意見については承知しました。 住民及び来訪者の安全や利便性、広義での環境保全との関連性を見極めながら対応して参ります。</p>
3	<p>3. 土地利用について 「土地利用現況図」は不正確です。このことから類推すると表「町土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標」の数値にも疑問があります。</p>	<p>土地利用現況図及び土地利用構想図については、縮尺等の関係から道路幅を太く着色するなど、詳細な着色としていません。土地利用転換の参考イメージとして作成していますので必ずしも表「町土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標」と一致するものではありません。 なお、計画案の表については、宮城県において公表している平成29年度時点の数値に基づいて作成しています。</p>
4	<p>4. 西部山地の名称について 総合計画では阿武隈山地、国土利用計画では阿武隈高地としているので統一したほうが良い。どちらも間違いではないが、山元町の西部山地の名称としては違和感があります。亘理郡の山地は特異な地形であり、広義の阿武隈山地とは区別された名称があります。 ① 亘理丘陵(経済企画庁 土地分類図) ② 亘理地塁山地(経済企画庁 土地分類図付属資料) ③ 割山隆起帯(国土地理院 地質図) 西部山地の名称としては「亘理丘陵」が妥当と考えます。</p>	<p>「阿武隈高地に連なる丘陵地」と記載を統一します。</p>